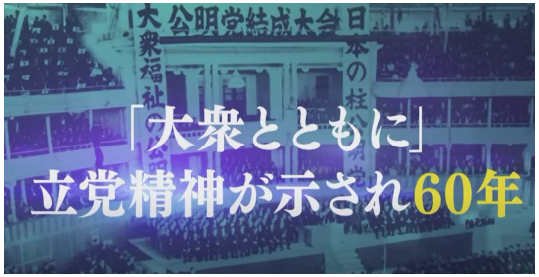
2022.10.01　発行元　公明党春日部総支部　春日部市中央2-25-30　FAX752-2384

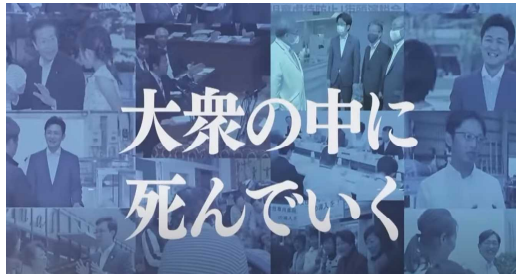
小さな声を、聴く力。公明党

春日部市議会議員くりばら信司

くりばら通信

新年度予算編成へ向け要望書を提出しました





「大衆とともに」との立党精神が示されて６０年。衆望に応えていく闘いこそ公明党議員の不変の使命。次の目標は２年後の結党６０年です。市議団は一丸となって党勢拡大に闘い抜き、結党６０年を迎えて参ります。どこまでも地域に、一人に、寄り添い、信頼を築き上げて参ります。

これからも市民の命と暮らしをお守りするために全力で取り組む公明党への変わらぬご支援を宜しくお願い致します。

新型コロナワクチン情報・春日部市のサイトより

11月1日（火）より、個別医療機関の接種で使用しているワクチンを、「ファイザー社製オミクロン株（BA1）対応ワクチン」から「ファイザー社製オミクロン株（BA4/5）対応ワクチン」に順次切り替えます。

問合せ先　健康課新型コロナウイルスワクチン接種担当０４８－７３６－１１１１（内線３６７２～３６７５）
（春日部市役所　〒３４４－８５７７　春日部市中央６丁目２番地）

公明党では無料の法律相談を行っております。
お申し込み、その他ご相談・ご要望は

くりばら　まで

電話は ０９０－３４７６－６５２６

令和４年９月議会における一般質問より

①：ファミリーシップ制度の導入について

問 パートナーシップ制度をいち早く導入し、申請された市民から同性カップルとしての当事者のみではなく、共に支えることになるご家族へも支援策が必要との要望を受け新たな制度としてファミリーシップ制度の導入を始めて居ます。これからパートナーシップ制度を導入する春日部としては先進事例から学び、同時にファミリーシップ制度を導入するべきでは、と市の見解を求めました。

答 市としては国の動向を見守り、現時点では任意接種を推奨します。

②：目の不自由な方がご家族にいる方への支援策について

問 視覚障がい者本人への支援策は様々なサービスが用意されています。しかし、中途で視覚を失うなど突然のことで対応に苦慮されるご家族への支援策は不十分との市民の声が寄せられました。そこで、市としての支援策について対応を求めました。

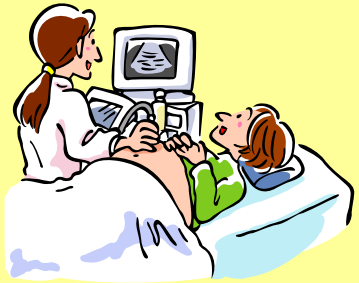
答 市としては、福祉など利用可能なサービスを最大限に活用しながら、民間法人の活用もご家族への支援の一環になると考えています。

③：こどもかけこみ１１０番の家について

問 先日の降雹被害では多くの家屋や車などが被害を受けましたが、特に下校時の児童生徒たちの中には出血するほどの大けがをされた方もいました。市では「こどもかけこみ１１０番の家」の事業を展開しており、ここに駆け込むことで怪我を最小限に抑えることができたのではないかと思います。マップの作成など制度設計の見直しが必要では、と市の見解を求めました。

答 市としては市Ｐ連など関係団体と連携協力して、安心安全な環境整備を進めていきます。

④：妊婦健診助成制度の拡充策について

問 妊婦健診に関しては基本健診部分は１４回分まで無料となっておりますが、医師の判断により助成額を上回る自己負担が生じている場合が多々あり、健診をためらってしまう妊婦さんの不満の声を聞きました。市として不足する部分を助成できないものか、市の見解を伺いました。

答 市としては国が示す基本健診以外に自己負担が生じていることを把握してますが、県内共通の制度でもあり、単独で支援は出来ないところです。